

授業科目 音韻障害Ⅱ（器質）

【担当教員名】 糟谷 政代	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	後期（後半）	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

器質性構音障害の定義、発生機序、種類、特徴および治療法を理解する。  
特に口蓋裂言語および口腔癌切除後の言語障害に関する言語症状、検査、評価、診断、治療法について学習する。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

鼻咽腔閉鎖機能不全に関する疾患、言語症状、検査、評価、診断、治療方法についての知識を学習する。  
他科との連携、手術方法、発音補助装置と言語障害との関係について理解する。  
口腔癌切除後の構音について理解する。  
器質性構音障害の症例に対する言語聴覚士の役割を認識する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	器質性構音障害の原因疾患、構音器官検査法、言語機能検査法		講義、
2	口蓋裂の概要、口蓋裂言語の特徴		講義、
3	口蓋裂言語の特徴（検査、診断、評価）		講義、
4	言語治療方法（対症療法、長期系統的治療計画と術前後の母親指導、言語管理		講義、
5	粘膜下口蓋裂、先天性鼻咽腔閉鎖不全症の言語障害		講義、
6	口腔癌（舌・硬口蓋・軟口蓋）切除後の言語障害、検査、診断、治療の留意点		講義、
7	試験		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	口腔顎顔面領域の異常と言語障害 -医師役出版- 伊東節子編			
参考書				
その他の資料				

【評価方法】 レポート 20 試験 80	【履修上の留意点】
----------------------------	-----------